

1. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

項目	指標		参考実績 (令和4年度)	達成目標 (令和9年度)	令和6年度	令和7年度	課題及びその改善策	意見等
(1) 医療機能に係るもの	救急車受入 件数	実績値	6,014	6,200	6,082	5,802	救急車受入件数と放射線治療件数以外は、目標値を達成できている。救急車の受入については、令和7年度の救急車応需率は90.5%であり、今後も救命救急センターの機能を強化し、「断らない医療」を継続することで、高い応需率を維持することが必要と考える。なお、全体の件数は減少したが中等度及び重症患者の受入件数は増加している（令和6年度：1,921件→令和7年度：2,041件）。放射線治療件数については、令和7年4月よりサイバーナイフが稼働し、南棟に設置された高精度放射線治療装置3台がすべて稼働したため、前年度と比較して件数は増加している。	
		達成率		以上	98.1%	93.6%		
	母体搬送受入 件数	実績値	147	150	153	157		
		達成率		以上	102.0%	104.7%		
	高難度手術 件数	実績値	5,149	5,300	5,558	5,635		
		達成率		以上	104.9%	106.3%		
	悪性腫瘍手術 件数	実績値	1,319	1,400	1,501	1,503		
		達成率		以上	107.2%	107.4%		
	放射線治療 件数	実績値	427	800	661	753		
		達成率		以上	82.6%	94.1%		
(2) 医療の質に係るもの	クリニカルパス 適用率	実績値	65.3	65	67.7	67.9	クリニカルパス適用率と入院時支援加算算定件数は、目標値を達成できている。予防的抗菌薬投与率は概ね目標値を達成できているが、今後も継続的に測定し、手術開始1時間以内に投与できなかった症例の分析が必要と考える。脳梗塞早期リハビリ実施率は100%に近いが、数値が下がっているため、数値向上のため実施できなかった症例の分析が必要と考える。心不全栄養指導実施率は、心不全患者の高齢化に伴い患者本人への指導が困難な中、実施率が低下傾向となっているが、今後も数値向上の努力が必要と考える。	
		達成率		以上	104.2%	104.5%		
	入院時支援加 算算定件数	実績値	1,262	1,500	2,203	3,493		
		達成率		以上	146.9%	232.9%		
	予防的抗菌薬 投与率	実績値	95.9	100	96.0	92.3		
		達成率			96.0%	92.3%		
	脳梗塞早期リハ ビリ実施率	実績値	96.3	100	99.6	97.9		
		達成率			99.6%	97.9%		
	心不全栄養指 導実施率	実績値	51.8	60	47.7	47.5		
		達成率		以上	79.5%	79.2%		
(3) 連携の強化 等に係るもの	紹介率	実績値	67.2	75	78.3	78.6	連携強化に関する指標については、紹介率、逆紹介率の目標は達成できた。地域連携パスの運用数については、入院患者の高齢化に伴い、合併症を多く保有している患者の増加に加え、術後の状態も不安定な患者が多く、当センターで引き続き管理する症例が増加したことや、一部パスの内容が更新されていないことにより現状に合わないケースがあることから、適用数は減少している。病診連携紹介予約数については、WEBでの予約受付も開始しており、増加傾向である。介護施設との連携件数については、前年度と比較して件数が減少しており、数値向上の努力が必要と考える。	
		達成率		以上	104.4%	104.8%		
	逆紹介率	実績値	107.9	110	114.2	113.7		
		達成率		以上	103.8%	103.4%		
	地域連携パス 運用数	実績値	644	800	590	522		
		達成率		以上	73.8%	65.3%		
	病診連携紹介 予約数	実績値	12,093	13,000	11,630	12,293		
		達成率		以上	89.5%	94.6%		
	介護連携指導 料算定件数	実績値	56	200	140	117		
		達成率		以上	70.0%	58.5%		
(4) その他	外来患者満足 度	実績値	83.2	85	80.4	78.4	入院患者に対する満足度は、目標を達成できた。外来患者に対する満足度は、待ち時間に対する不満が最も大きいと考えている。通院支援アプリや動画サービスによる待ち時間対策は行っているので、満足度の向上につながるように継続が必要と考える。	
		達成率		以上	94.6%	92.2%		
	入院患者満足 度	実績値	91.2	92	93.2	94.9		
		達成率		以上	101.3%	103.2%		

※達成率＝当該年度実績値／達成目標の値（パーセントで小数第1位まで記載）

2. 経営指標に係る数値目標

項目	指標		参考実績 (令和4年度)	達成目標 (令和9年度)	令和6年度	令和7年度	課題及びその改善策	意見等
(1) 収支改善に係るもの	経常収支比率	実績値	98.8	100	95.1	96.4	医業収支比率の目標は達成できたが、経常収支比率と修正医業収支比率は達成できなかった。次に掲げる(2)収入確保に係る指標や(3)経費削減に係る指標の目標を達成することで、更なる収支改善に取り組んでいくことが必要と考える。	
		達成率		以上	95.1%	96.4%		
	医業収支比率	実績値	106.1	100	100.5	102.3		
		達成率		以上	100.5%	102.3%		
	修正医業収支比率	実績値	94.1	95	92.7	92.4		
		達成率		以上	97.6%	97.3%		
(2) 収入確保に係るもの	病床利用率	実績値	78.7	85	80.5	81.6	外来単価は目標値を達成できたが、それ以外の指標は達成できなかった。病床管理部を中心とした効果的で効率的な病床管理を行い、疾患毎に設定されているDPC期間Ⅱを意識しながら在院日数を適正化しつつ、病床利用率を最大化していくことが必要と考える。	
		達成率		以上	94.7%	96.0%		
	DPC期間Ⅱ以内退院率	実績値	67.3	70	66.6	65.5		
		達成率		以上	95.1%	93.6%		
	入院単価	実績値	95,953	100,000	97,522	99,402		
		達成率		以上	97.5%	99.4%		
	外来単価	実績値	19,189	20,000	21,739	22,824		
		達成率		以上	108.7%	114.1%		
(3) 経費削減に係るもの	職員給与費対医業収益比率	実績値	51.7	50	51.1	50.0	職員給与費対医業収益比率は、人材確保や維持を目的として人事院勧告に沿った給与表の改定を行ったが、目標を達成できた。 材料費対医業収益比率は、高額薬剤の増加により比率が上がってきているため、目標を達成できなかった。 経費対医業収益比率は目標を達成できなかったが、令和4年度の実績と比較すると値は下がっている。 後発医薬品使用率は目標を達成できており、今後も継続して後発医薬品の採用を推進することとしている。	
		達成率		以下	97.8%	100.0%		
	材料費対医業収益比率	実績値	30.7	32	32.0	33.9		
		達成率		以下	100.0%	94.4%		
	経費対医業収益比率	実績値	16.7	15	15.8	15.6		
		達成率		以下	94.9%	96.2%		
	後発医薬品使用率(数量)	実績値	87.7	90	90.9	92.1		
		達成率		以上	101.0%	102.3%		
(4) 経営の安定性に係るもの	未収金累計額	実績値	65,867	65,000	60,457	57,850	未収金については、弁護士への回収委託を含め、発生防止対策を確実に実施することで減少し、目標を達成できている。 今後の資金計画としては、設備更新が予定され、資金が必要となる見込みだが、可能な限り債券の保有金額を維持し、自己資本比率を高めていく必要があると考える。	
		達成率		以下	107.5%	112.4%		
	債券保有金額	実績値	160	100	144	128		
		達成率		以上	144.0%	128.0%		
	自己資本比率	実績値	48.3	50	48.4	47.4		
		達成率		以上	96.8%	94.8%		

※達成率＝当該年度実績値／達成目標の値（パーセントで小数第1位まで記載）

3. 経営強化プランを達成するための各種取組の状況

項目	令和7年度の業務実績・課題及びその対策	意見等
医師の働き方改革への対応	(1) 労働時間と組織管理 ・医師の勤怠管理に向けてクラウド型システム (Dr. joy) により、ビーコンでの自動打刻及び時間外勤務時間や年次休暇等の休暇について電子申請 (承認) を継続した。 ・従来からの産業医 (当院医師) による健康相談に加え、時間外・休日労働が100時間以上となる前に必要に応じて就業上の措置を講ずることを目的に、当該月の15日時点で時間外・休日労働時間が45時間を超えた医師を抽出し、面接指導 (健康確保措置) を実施した。 ・勤務間インターバル確保 (連続勤務時間制限) 及び代償休息確保 (健康確保措置) を可能とする勤務体制 (予定勤務表の作成) となるよう、当直明けは原則休日とし、遅くとも正午には退勤するよう努めた。 (2) 労働時間短縮に向けた取組 ・医師の労働時間短縮に向け、「医師の働き方改革に関するワーキンググループ」会議における議論を踏まえ策定した業務と自己研さんの区分に基づき、取り組んだ。 ・医師の負担軽減に向け、医師と医療支援部門職員との間でタスク・シフト (シェア) を推進するとともに、随時項目の洗い出しを行った。 ・医師の業務負担軽減に向けたタスク・シフトを進めるため、ドクターズアシスタント (医師事務作業補助者) の定着に向け人員配置のバックアップ体制を維持し、勤務時間を延長する勤務体系等を活用することで、医師ニーズを満たした。 ・医師事務支援に係る幅広い知識とスキルを持ったドクターズアシスタントを評価するため、段階的な評価制度を継続した。	
新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組	(1) 新興感染症発生時における受入体制の整備 ・5階西病棟を新興感染症発生時の受入病棟として確保するとともに、業務計画の見直しを行い、新型インフルエンザ等対策準備検討委員会の承認を得た。 ・医療措置協定に基づきマスク・ガウン・手袋などの防護具の備蓄を2ヶ月分確保することに努めた。 (2) 業務計画等に基づく職員への教育及び訓練の実施 ・新興感染症の研修について、医療措置協定に基づき適切な研修が受けられるよう情報の提供と参加の推進に努めた。 ・令和7年度岐阜県新興感染症対策対応力強化研修の参加者は看護職66名であった。	
デジタル化への対応	(1) 国・県の施策に係るもの ・国が推進する医療DXへの対応については、令和6年1月からマイナ診察券を再来受付機での利用を可能とし、令和7年9月からはマイナスマホにも対応した。その結果、マイナ保険証の利用率は80%まで向上した。令和7年4月からは、救急時医療情報閲覧機能の運用を開始し、国が推進する医療DXに対して迅速かつ適切に対応してきている。 (2) 医療の質向上、働き方改革の推進に係るもの ・電子カルテシステム等の更新に合わせて導入した放射線画像A I 診断システムについて、胸部X線画像において全診療科での活用を実施し、医師の負担軽減および質の高い医療の提供を継続した。 ・WEB予約システムに関する広報活動とともに、地域医療機関へのWEB予約システム訪問設定および利用開始後のサポートを継続実施することで、利用施設数ならびに利用件数が増加した。 ・事務部門に加えて医療技術部門にも定型業務の自動化を拡大し、業務の負担軽減を図るため、RPAを導入した。 (3) 情報セキュリティ対策に係るもの ・2月に岐阜県警察と合同で「サイバーインシデント対応研修」を開催した。病院長をはじめ、医師、看護師、コメディカル、事務等、職種を横断して計46名が参加。サイバー攻撃により電子カルテシステムが利用不能となった事態を想定し、最新の脅威動向の把握とともに、有事の際の初動対応シミュレーションを通じて組織的な危機管理能力を強化した。	
その他特筆すべき事項	病院経営について、引き続き厳しい状況が続くものと予想される。投資した資金の確実な回収や業務運営の改善及び効率化を進めるなど安定的な病院運営ができるよう、今後とも経営基盤の強化と収益確保のための努力を継続していく必要がある。	